

近畿地方整備局事業評価監視委員会（平成27年度第1回）

議事録

日時：平成27年7月6日（月） 16:00～18:40

場所：近畿地方整備局 第1別館（2階）大会議室

【委員長】 それでは、早速ですけれども、議事次第に従って進めていきたいと思えます。

■足羽川ダム建設事業

【委員長】 それでは、何か同事業についてご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願ひします。

【委員】 一番わかりやすく、わかりにくいのが3ページなんですけど、この導水トンネルをつなぐことによって、この水系の水の流れが洪水時にどう変わるのかということだけ、わかりやすく説明をお願いします。

【事務局】 水の流れの方は、すいません、これ、資料が見にくいのですが、こちら、足羽川はこのように流れていって、支川の部子川というところ、こちらの方にダムを建設します。あとはこちらの方に水海川という川が流れているのですが、こちらの方に1期工事目の導水路をつなげまして、これより上流に降る水の方を導水させていただきます。あとは足羽川、あとは割谷川、あとはこちらの方に赤谷川という3つの川が流れておるんですが、2期工事の方ではこちらより上流の方の3川の水を導水させていただいて、こちらの部子川の上流のダムの方に貯めさせていただくという計画になっております。

【委員】 足羽川の支流から、洪水時には一気に足羽川ダムへ水を流す、そういうふうに考えたらいいですか。

【事務局】 結構です。

【委員長】 ほか、いかがでしょうか。

【委員】 参考までに教えてもらいたいんですが、これは今のこの整備計画では、天神橋地点で600m³の洪水調節をするため、水海川の1河川からの導水路をつくってダムに貯められるわけですね。ダム自身は多分フルスペックのダムなんですよね。ということは、引っ張ってくる水量そのものが、ダム容量に比べてかなり小さいという状況ではないかと思うのですが、この認識は正しいでしょうか。

【事務局】 そうですね。導水路が2期工事分がないうちは、やはり集水面積が半分ぐ

らいになります。

【委員】 そういう予定でということですね。

【事務局】 そういうことです。

【委員】 参考までにお聞きしたいと申し上げたのは、フルの計画にされたら、何 m^3 ぐらいカットされて、どのぐらいの費用増になるんでしょうか。

【事務局】 まず1期工事をやったときの工事が完成し、目標としている洪水が降ったときには600 m^3/s のカットとなります。2期工事が完成したとき、その目標洪水は1期工事のときよりち大きめな洪水なんですけど、そのとき800 m^3 をカットすることでなっております。

そして、事業費についてはちょっと2期工事分の試算した時期は古いのですが、そのときは1期、2期合わせて約1,500億円程度の事業費という数字があったように記憶しております。ですので、今が約1,000億円弱ですので、プラス500億円ぐらいかかるというような状況でございます。

【委員】 わかりました。ありがとうございました。

【委員長】 どうぞ。

【委員】 コメントですけど、これは足羽川ダムというのは治水専用のダムなわけで、先ほどのB/Cもありましたけれども、特にBのところについては治水だけと、通常の間ゆる利水も含めたもののダムとはちょっと違うわけですね。ですから、数字はこれで精査されていると思うんですけども、引き続きCを、いかにコストを厳選されて、しっかりと精査されるということが引き続き大事だということをまず申し上げておきます。

それから、きょうの委員会は全体、近畿地方整備局全体ということ、先ほどご紹介ありましたようなダム事業については事業費のコスト削減の別途委員会を持たれていますので、そちらの方との役割分担についても、やり方がいろいろあると思いますけれども、非常に大規模な事業ですので、その点についても引き続き精査していただきたいというふうに思います。

以上です。

【委員長】 どうぞ。

【委員】 前回、もしかしたら聞いていて、いまだにわかっていないんだったら、私の責任なんですけど、このように導水トンネルを使ってやらざるを得ない理由を端的に、もし可能でしたら述べてください。

【事務局】 理由というか、ちょっと経緯をご説明しますと、実はこのダムサイトの今の位置というのはサイト位置を一度変更しておりまして、元々はこの下流の美山町というところにダムサイトをつくる予定でした。ただ、そこでは200戸から300戸程度の水没家屋が出るということで、地元の方から反対運動のようなものが起こりまして、そちらの方も考慮して事業の再評価というか、まだ再評価制度はなかったんですけど、ダム審議会というのを開きまして、有識者の意見をいただきながら再検討した結果、ダムサイト位置を変えようということで、その下流の本川部分から別の箇所を探したというような経緯があります。その新しいサイト位置を探して、何案かつくった中で、コストとかいろんな項目について検討した結果、現在のサイト位置が最適であろうということで今の位置とさせていただいております。

【委員】 直接的な要因はそうであったということは理解したんですが、こんなふうに通水トンネルを、同じ支流とはいえ、別のところから引いてくるということは決して環境上よろしくないですよ。そこらに関して、九頭竜川水系全体で、環境面も含めてどんなふうに通水するかという全体計画はあるんですよ。

【事務局】 もちろん水の利用計画、治水のとき、どのような流量配分するかというのは河川整備計画とか、もしくはそれにぶら下がる詳細な計画で検討させていただいているところがございます。そして、通水というのは環境にあまりよろしくないんじゃないかというお話でございますが、我々としても影響が全くないということは考えておりませんので、今、環境アセスメントのフォローアップ委員会という有識者会議の方を事務所の方で設置させていただいております。その有識者の方々のアドバイスをいただきながら環境への負荷を少しでも小さくすべく今後、取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

【委員】 足羽川だけではなくて、九頭竜水系では電力開発の関係で、ある部分河川の表流水がなくなったりすること、ありますよね。そういう全体像に関して、それを論議されているんでしょうか。

【事務局】 九頭竜川水系の河川整備計画というものがございまして、そちらの方は九頭竜川水系全体を対象にしておりますので、全体を対象にした利水の計画とか、水の流れの計画の方は計画を持っておって、もちろん状況が変わればそのつど点検し、見直していくというようなことになっております。

以上でございます。

【委員】 ありがとうございます。

【委員長】 では、いろいろご質問等、出ましたけれども、議論をし、結果としてはいただいた資料、説明の範囲において概ね適切に進められており、対応方針（原案）どおり、事業継続でよいと判断したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】 ありがとうございます。それでは、足羽川ダムについては継続ということで判断させていただきます。

■一般国道1号栗東水口道路Ⅱ

【委員長】 それでは、栗東水口道路Ⅱの審議を始めたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】 私、この委員をやらせていただいて結構なんですけど、この手の話が出たら、大体必ず私、話しているんですが、これ、普段から使っている道路なので、非常に効果はよく実感しております。実際、行かれたら、とられていると思いますけど、旧1国のパチンコ屋さんの前からの渋滞が消えたので、ものすごい渋滞が消えたので、効果はもう絶大やということはほとんどわかるんですよね。だから、基本的なその分を事業効果の実感というのは多分、地元もかなりあると思うんですけど、ただ、先ほどの湖南市長から何か出ているお話を聞くとね、これはこれであるんだろうなという感じはするんですけど、旧国道1号になっているところって、実は既にかなり物流業者とか倉庫屋さんが相当くっついていて、新しい道路をつくったのと、旧国道1号で出ている物流という機能はどれぐらい分担されているのかといたら、これ、トラックの混入とかもかなり変わってくるかなと。あるいはひょっとしたら変わっていないのかもしれないので、そのあたりちょっと注意して、言ったら、今後、多分評価とかされるでしょうから、見られた方がいいかなと思うんですね。何かできたらみんな、よかったらいいじゃなくて、実はほかのどこ、くっついてるのが地元であるので、そこも実際、本当に効果として発現しているものと見ていいのかどうかというのはちょっと冷静に見られた方がいいかなと思うんですよね。もちろん、沿線と湖南と、それからもう1つ栗東は先にあるので、この両方とも影響は出るはずなんですけど、今、ちょうど湖南市の話が出ていますけど、これ、栗東も相当影響は出ているはずなんですよ。そこもちょっとちゃんと捉えた方がいいかなと思うので、その辺、今後、また次、整備効果とか、事業効果とかやられるでしょうから、あたり

ちょっと注意していただきたいなと思います。

【事務局】 ありがとうございます。ご指摘のとおり、旧国道1号には沿線の広いエリアを使って倉庫や工場が張り付いているところもありますので、大型車の動きやそういったところも今後もしっかり見ていくようにしていきたいと思っております。ありがとうございます。

【委員長】 ほか、ございませんか。よろしいですか。

【委員】 パワーポイントの方だけであって、こちらの配付資料にない資料を出されたと思うのですが、渋滞の位置の渋滞の関係のデータです。この資料はどういうふうに読むかという、「ほとんど供用できているのに、まだ渋滞が残ってしまっている。そして、その場所が移ってしまいました。」という議論であると読めます。渋滞が残っているという理由で、事業を継続すべきであるという議論をされると、その論理がよくわからないと思います。むしろ、問題にしていた箇所は解消したということを示す資料として、このデータを使うならまだしも、そうでなく、ほかに渋滞が残っているのであれば、この事業をしたことで渋滞を引き起こしているということになってしまいますよね。これ、どういうふうに理解したらいいのかわからないと、こういうふうに思うわけですね。このあたりについて、少し解説いただけないでしょうか。

【事務局】 実はこの国道1号のバイパス、栗東水口道路Ⅱは、国道1号、国道8号が合流する区間であり、しかも合流付近には名神高速道路の栗東インターチェンジがあり、交通が集中するところになっています。この栗東水口道路Ⅱの西側には先線として栗東水口道路Ⅰという事業がございます。実は、この栗東水口道路Ⅰについても、栗東水口道路Ⅱとセットで、(主)上砥山上鉤線までの間を今年度供用する予定になっております。この栗東水口道路Ⅰでは、名神高速道路との新たなインターチェンジを整備しており、京都向きの交通が乗り降りできるようになります。そのため、現在栗東インターチェンジ付近に集中している交通を栗東水口道路Ⅰの新たなインターチェンジに交通分散させることができます。このような目的で事業を行っているものですから、栗東水口道路Ⅰが供用していない現在の整備状況ですと、渋滞箇所が西側に移動しただけという状況になっています。栗東水口道路Ⅰとセットで供用を行えば、この渋滞もおそらく解消していくのではないかと考えているところでございます。

【委員】 わかりました。じゃ、そのようにご説明いただけたら非常にわかりやすかったかなと思います。

【事務局】 申しわけございません。ありがとうございます。

【委員長】 幾つかご意見をいただいたところですが、審議結果といたしましては、審議会に提出された資料、説明の範囲において、概ね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり、事業継続でよいと判断されたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】 ありがとうございます。それでは、原案、事業継続ということで判断させていただきます。

■一般国道29号姫路北バイパス

【委員長】 それでは何か同バイパスについて、ご意見等ございますでしょうか。

【委員】 すみません、初めてなものでとんちんかんな質問をするかもしれません。この道路ですが、平成23年度に1期が完成し、その後3年間、今に至るまであまり進捗していないというふうに見受けられますが、その期間というのは、調査などに費やしたと考えるとよろしいのでしょうか。もし、そうだとすると、この後の進捗というのはどういふ予定で進められていくか、教えていただけませんかでしょうか。

【事務局】 ご質問、ありがとうございます。

地元は現在も同バイパスの整備を非常に期待されており、整備計画について地元へ説明をしております。昨年度は幅杭を打ったり、用地の交渉を始めているような状況でございます。それが整った暁には用地買収や工事もやっていきたいというふうに考えておりまして、特段大きな問題を抱えているような状況ではございません。今、地元とお話をしっかりとさせていただいているのが状況でございます。

【委員】 3年間もそういうことを続けられていらしたと思うのですが、どのぐらいを目処に次の段階に入られるご予定ですか。

【事務局】 地元のご了解が得られないまま、何年に供用と言えないような状況でございますので、ちょっとそこは控えたいと思いますが、我々としては少しでも早く地元の了解を得て、先に進めたいというふうに考えております。

【委員長】 明言するには難しいところがあるので、こんな感じだと思います。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、姫路北バイパスの、審議結果ですけれども、委員会に提出された資料、説明の範囲において概ね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり、事業継続でよいと判断されたいと思いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】 ありがとうございます。

■一般国道163号精華拡幅

【委員長】 それでは、審議に移りたいと思いますが、何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

【委員】 前回の審議のことはよく覚えています。今、改めて見ると、精華拡幅の最初の図が一番わかりやすいと思うんですが、これが京奈和とクロスして、その先で止まっちゃっているわけですね。これには理由があるということは前回聞いて、なるほどと思いたんですが、この先、例えば全部京奈和に流れるんだというものの考え方だったら、それはそれで何とか収まるんでしょうが、実は、もっと東まで延びているわけですね。この先、何が起こると、想像されますか。

【事務局】 質問、ありがとうございます。

この精華拡幅よりも東側の部分は、元々163号がそのまま直進して24号にぶつかるという線形でしたけれども、そちら、非常に家屋が密集してしまっていて、拡幅が難しいということで迂回をさせる格好になっております。この先は、今、地図上ではこの24号で終わっておりますけれども、このさらに東に私どもの木津東バイパスということで事業を行っております。さらに先には京都府で事業をしております。ここにある、木津川市にある学研都市の一部の宅地開発と結ぶということにつながって計画をしておりますので、そのあたりは一連のものとして、ネットワークとしては現実につながる予定にはしておりますので、ここで途切れているという感じでは、絵的にはそうなっておりますし申しわけないんですけども、実際的にはネットワークとしてはつながっていく予定になっております。

【委員】 ということは、この先、今、そこでストップせざるを得ないところを何とか延ばしたいと考えておられるということですか。

【事務局】 既にこの延ばすというのは、24号とこの163号がぶつかるT字になっておりますけれども、その先を延ばす事業も既にしておりまして、事業化をしております。その先には宅地開発のエリアとつながる予定になっております。

【委員】 わかりました。

【委員】 簡単な質問になるかもしれませんが、先ほど交通事故が異常に多いところ、このところは何もなかったんですけど、私、ちょっと思うに、これは何か渋滞がすごいから、交通事故がやたら起こっているというふうに聞こえたんですけど、私どもは、その線形が悪いのと違うかなと思ったんですけど。これ、線形も当然、直されるんですよということの確認です。

【事務局】 事故は全体としては減っていますが、まだ平均よりも高いという状況で、この事故原因を少し見てみますと、やっぱり半分が渋滞による追突事故、2割ほどが線形不良による見通し不良による出会い頭の衝突ということでございまして、渋滞については当然今回、4車線化することで解消しますし、見通しもよくなりますので、その事故原因から見た場合の対策ということは、この事業でかなり網羅できているのではないかと、いうふうに思っております。

【委員長】 よろしいでしょうか。

それでは、同事業について、本委員会に提出された資料、説明の範囲においては概ね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり、事業継続でよいと判断されたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】 ありがとうございます。精華拡幅についても、事業継続ということで次に進めたいと思います。

■一般国道165号香芝柏原改良

【委員長】 それでは、いかがでしょうか。

【委員】 スライドで3に交通状況の変化と書いてあるんですね。ですから、そこに書いてありますように、交通容量拡大で混雑が緩和されることは事実だろうと思うんですけども、どの程度緩和されると予測されているのか。もし、予測されておられましたら、教えてください。

【事務局】 ご質問、ありがとうございます。

今回、この香芝柏原改良、先ほども申しましたとおり、中和幹線国道165号から集中して、今、2車となっておるのを4車にして交通緩和をさせるということで、今、どの程度ということでありまして、一応渋滞がなくなって、スムーズに通れる道路という

ような状況になるというふうに考えております。すいません、ちょっと定性的なお話ですけど。

【委員】 定量的には出しておられないということですね。

【事務局】 はい。

【委員】 わかりました。

【委員長】 ほか、特にございませんか。

それでは一般国道165号、香芝柏原改良の審議結果ですが、当委員会に提出された資料、説明の範囲において概ね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり、事業継続でよいと判断されたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

■一般国道168号五條新宮道路（風屋川津・宇宮原工区）

【委員長】 それでは、審議に移りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】 先ほどの案件とも似ているんですけど、関連してお聞きしますが、今、好天時の通行止めとか事故とかということとの関係への重要性、指摘されていますが、そのあたりの部分についてはどのように改善されるというふうに理解したらいいのでしょうか。事例があるのはわかったんですが、この工事においてどういうふうに改善されるのかは、先ほども今回も、今のこれについてもわかんなかったんですけど、何かその辺についてお考えがあれば教えてもらいたいと思いますが。

【事務局】 今回の五條新宮、風屋川津、五條新宮道路ですけれども、実は先週の金曜日も落石事故が現道にありまして運転手が重軽傷を負うというような事故があったんですが、そういった非常に現道は落石とか、あと通行止めが多い道路となっております。今回、改良していく道路、ちょっと点線になっておりますが、ほとんどトンネルの方で結んでいくということになっておりまして、そういったことで落石とか、土砂災害、そういったものが避けられるような構造で整備していくというふうに考えております。

先ほどの香芝柏原はトンネルということじゃないんですが、これも非常に崖が多いところを通っている、非常に線形の悪いところを通っているところなんですけれども、そういったところ、直線でつないで、さらに道路もしっかり手当して、安全な道路を整備していくというふうに考えております。

すいません、先ほどの質問で、ちょっと訂正させていただきますけれども、3ページ、

すいません、香芝柏原改良の3ページのところで、渋滞の交通容量を増加するというところで書いてありまして、右側の穴虫西交差点については、今、赤線のところの交通容量で大幅に渋滞しているんですが、これが整備後になれば、点線の部分になって交通渋滞がなくなるというような定量的な想定をしているということでもあります。

すいません、追加でお答えさせていただきました。

【委員】 これ、多分、私、前回もこれが出たときに申し上げたと思うんですけど、この今、事案に上がっている168の改良というのは多分、誰が聞いても、皆、もう反対しませんから、とっととやってくださいと言うと思うんです。その感覚で言うと。人、死にますからね、これ、放っておくと。問題はやっぱりその進捗が先ほどもありましたけど、ちょっと遅いのがすごく気になっていて、それはもう大変なのはよくわかるんですけど、何とかできるだけ早く部分改造でも何でもいいので、地域にとってもそうですし、和歌山の南ともつながっている道になりますので、やっぱりそういう点でちょっと早く改善を進めていただければなというふうに思うわけです。一応、コメントです。

【事務局】 ご指摘、ありがとうございます。整備、スピードアップ、できるだけしていきたいと。もちろん、できたところは部分的に開通していくということはもちろんでございますが、そういったことを進めていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

【委員】 この168号線とか169号線もそうなんでしょうけど、和歌山の紀勢線のところと結びついているリダンダンシーも含めた災害については、そういった代替道路の役目も果たしているんだろうと思うんですね。このいただいた図面を見ますと、皆さん、同じだと思うんですけど、非常につぎはぎといいますか、こう藁をべたべたつぎはぎで張っているような感じがするんですね。今も何か1カ所、道路が閉鎖されているというようなことをおっしゃったんですけど、例えばここが閉鎖されることというのは、何か風水害で台風が来るとか、大雨が続くとか、ないしは地震が起こるとか、そういった天災地変が少し激しいときに道路が閉鎖されたり、崖が崩れたりするんだろうと思うんですね。それに見合うようにトンネルをとということなんでしょうけど、何かこれで見ると、道路ですから、やっぱりどこか1カ所埋もれてしまえば、それでも和歌山へ行けない、ないしは十津川へ行けないという形になると思うんですね。それをのけようと思えば、3日待ってください。もっと1週間待ってくださいという話になると思うんですね。だから、そこでこう藁を旧道に対してべたべた張って行って、つぎはぎして何か補整、補整とやっていく

ことをしても、一部トンネルでつないでも、いざ震災が起こるとか、大雨が降るとか、台風が来たときには、こんなことやや悲観的ですが、どうせまたこれ、道は何カ所か閉鎖されるということは、直らないというか、なくならないだろうというふうに想像できると思うんです。だから、もちろん費用対効果なのはわかりますけど、何か1本、この奈良と和歌山の新宮あたりについては、1つそういう災害に強い道路を作らないとダメだと思えます。こんな方法で、すなわちこう薬を次々に張っていく方法では、それで道路が、十津川の村の人の安全は守れていないことと、また、震災が起こったときに道路というのは、1つが詰まってしまえば使えないのに、それでは機能するんだらうかという疑問が拭えないんですけども、どうでしょうか。

【事務局】 今、この国道168号線については、つぎはぎということではなくて、別線で整備しておりまして、順次整備している段階でありまして、例えば今回、整備している風屋川津工区であれば、その上側も川津道路ということで整備しておりますし、そういった形で、全線一気にというわけではないんですけど、順次、別線で規格、高い道路で整備しているというような状況で、これが全部整備できれば、かなり安全性の高い道路になると。そして、震災のときも、緊急物資、運べる道路として活用できるというふうに考えております。

【事務局】 少し補足させていただきますと、この168号線、まず集落がこの現在の168号線沿いに展開している。ものすごい谷間の地形でございますので、現168号線沿いに集落が点在しているというのを踏まえて、この168号線、全くの別線を、別の道路をつくって、まさに五條と和歌山の新宮をつないでも、途中の十津川村で点在している集落の方へのアクセスが事実上できないということでございまして、この168号線を改良していくというような手法をとっております。

一方、つぎはぎということではありますが、実はなぜつぎはぎになっているかといいますと、より現道がひどいところを優先的にバイパス、バイパスとやってきておりますので、例えば、この6ページ目の地図を見ていただきますと、太い実線になっているところは既にバイパスとして開通しているところでございます。ですから、こちらは既にのり面の崩壊とかの心配のないところになっております。そこをバイパス、バイパスとつないできているということの手法をあえてとっております。ですので、このある意味つぎはぎではございますけれども、そのつぎはぎがつながりますと、一連の完結した割にしっかりと安全な道路として、別線が構築されるというような事業展開をしているというふうにご理

解いただければと思います。

以上でございます。

【委員長】 よろしいでしょうか。

【委員】 そのバイパスというのは主にはトンネルであって、地質上とか地形上、一番危ないところはトンネルにして、そうでないところは現道を当面は使うとか、きつときめ細かいことを考えておられるに違いないと信じているんですが、それでよろしいですか。

【事務局】 先生、ご指摘のとおりでございます。まさにそういうことを念頭に置きながらの事業展開をしていっているのが、このまさに6ページの地図でございまして、より危険なところはトンネルにし、かつ現道も活用しながら、最も短期的にも投資効果が上がるような事業展開をしているというのが我々の作戦というか、展開しているやり方でございます。

【委員】 すると、そういうリスクの高さをここにプロットし、かつ集落の分布、そういったものをプロットしていくと、何かおそらく納得のできるような図になるんじゃないかと思います。

【事務局】 ご指摘ありがとうございます。先生のご指摘のとおりでございます。道路のことしか表現できておりませんで、3ページ目には多少、その集落がどこにあるのかというのはありますが、各地図に集落などの情報もきちんと入れてまいりたいと思います。

【委員長】 他にございますか。

【委員】 先ほど、これは五條と新宮という話がありましたが、ここは要するに山からの土砂崩壊が非常に多いところで、今後ともあるわけですね。それから、ダムが縦列にあって、その土砂管理も将来的にやっていかないといけないという、そういう宿命にあるということで、工事用の道路というだけではなくて、将来的な、あるいは恒久的な土砂をどうやってマネジメントしていくかという観点での重要な幹線であると、そういう視点もありますので、こういう道路ができることで、将来に向かって、その現道をダンプとか、狭いところをどんどん走るということではなくて、ある程度安全にそういう自動車管理もできていくという視点も、これは一過性のものではないという位置付けもおそらくあるんだらうと思いますので、そのあたり、しっかり見極めて、工事を進めていただきたいと思います。

【委員長】 ありがとうございます。

いろいろご議論いただいたところですけど、対応方針（原案）どおり事業継続という方

向性のなかでの議論だったというふうに理解させていただきたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 本日の審議事項は以上で終わりました。司会の不行き届きで、時間管理がうまくできずに申しわけございませんでした。

では、一旦、事務局にマイクを戻したいと思います。

【事務局】 長時間にわたります審議をありがとうございました。

それでは、ここで議事録の速報版を作成いたしますので、しばらくお時間をいただきたいと存じます。

それでは、議事録の作成を終えてお配りしてございます。委員長、改めて議事進行、よろしく願いいたします。

【委員長】 お手元に速報版があります。ご確認願えますでしょうか。ご案内のとおり、審議の方は全て原案どおりという形の議論だったかと思います。

それでは、お手元の速報版ですけど、確認できたかと思います。それ以外、事務局の方から何かございますでしょうか。

【事務局】 特にございません。

【委員長】 委員の方から何かございますでしょうか。議事進行うまく行かず、会議が延びて申しわけございませんでした。

それでは、これで審議終了ということで事務局へお返しします。

【事務局】 それでは、以上をもちまして平成27年度第1回近畿地方整備局事業評価監視委員会を閉会といたします。

本日は長時間のご審議、まことにありがとうございました。

【議事録終わり】